

## マルチビタミン摂取と前立腺がんについての 研究結果への疑問

ナチュラルプロダクトアソシエーションは、国立癌研究会誌に載せられるマルチビタミンの摂取が前立腺がんへのリスクを高めるという研究結果について異議を申し立てた。

ナチュラルプロダクトアソシエーション学術副課長のダニエル・ファブリカント博士は、5月16日発行の国立癌研究会誌に掲載されるマルチビタミンが前立腺がんのリスクを高めるという研究結果に疑問があるとコメントした。

「この研究結果に疑問を感じる理由は幾つかある。初めに、これはコホート研究であり、それは“判断基準”であるランダム化比較研究ほど信頼性が無い。結論を急ぐ前に正しいデータを集めようではないか。この統計の性質は、今回の研究の場合のように、多くの結果判定法を持つ研究者が、数多くのデータ確認方法を使用しているために何の影響が無くとも在るような推定につまずく事はよくあることである。多くのコホート研究のように、多数の変化が関係してくる。これらの欠陥した観察は、著者の数字の評価と、結果として生じる偏りによって埋められ、それはこの研究にも多く見られた傾向である。優れた研究は一つの研究問題について問いかけ、その一つに対して確かな結果を追求するものである。今回の大きな研究は、もともと食事と健康の関係についての一般的な知識を向上させることを目的とした研究であった。リスクの可能性を推測する目的ではなかった」

「それに、前立腺ガンの症状が現れる前から、または健康の異常が発見される前に前立腺がんを診断することを許すというスクリーニング方法は、前立腺ガン発生率に対する相当な影響も持っているはずだ。この研究ではそのことについて一切話し合われていないが、国立癌研究会のホームページではスクリーニングの影響について触れている。“証拠は、前立腺特異抗原かデジタル直腸試験による前立腺ガンの検査が前立腺ガンによる死亡率を減らすかどうか決定するのに十分である。スクリーニングテストは初期で前立腺ガンを発見することができるが、この早期発見と処置がこの病気の経路と結果に変化をもたらすかどうかは明らかではない。”最後に、家系がガンの発生率に強い要因があるということを考えると、前立腺ガンは乳がん経験者が家族にいる男性に増加するといえる。この種の潜在的危険因子は、今回の研究において考慮されていなかった」。